

# フクタクニュース

発行



(株)フクタク

砕石部

## 受賞御礼



さる十月六日、日本砕石協会第三六回砕石技術大会において弊社木村専務が昨年発表した『東北地方における骨材諸問題の考察』に対して、『砕石奨励賞』を受賞しました。

また、安全管理功労者』表彰をいただきました。これもひとえに業界の皆様はじめ、お客様、地域の皆様のおかげと感謝申し上げます。今後もおかげと感謝申し上げます。ありがとうございます。



## 御来場歓迎

岩手県火薬類保安協会主催による発破技術研修会が当社下平採取場において開催されました。全火協登録講師をはじめ、保安委員の方々が前日から入念な準備、予行をし、爆薬の威力試験や水中爆発試験等の通常では見ることができない試験が実施されました。当日は、岩手県の火薬保安担当の方をはじめとし、行政担当者、県内の火薬従事者、70名を超える方々がおみえになり、午前中は実地、午後からは浄法寺カシオペアセンターに会場を移し検討会が開催されました。

また、10月2日には砕石研究会の現地見学会が開催され、岩手大、秋田大、東北大から学術研究者の方、東北地方の業界の方35名がおみえになりました。当社は各地から大きくなく、取り柄のない工場ですが、こうして各々ご来訪いただければ幸いです。これからもおもてなしの心を持ちお迎えしたいと思います。



## 松山雑記

松山といえば、伊予柑、じゃこ天、タルトが有名(だそう)しかし、街を歩いていたらちよっとそそる看板を見付けた。『**労研饅頭(ろうけんまんとう)**』なにやら由緒ありげなのだ。聞くとところによると中国東北部風のまんじゅうなのだそう。由来を知りたい方は【**労研饅頭**でネット】で検索を・・・

食べるとノスタルジックな味がする。

松山人が二戸で丹市パンを食べたら同じ味覚を感じるのだろうか・・・



## ～鳥形山慕情～

「雨男」と言う。望まない雨が降った時、日本の文化として「私が雨を降らせてしまいました」と責任を背負い込む役が登場する。その雨降りが、たまたま台風となれば居合わせた人間全てが「雨男」として懺悔しなければ足りないのであろう。

10月8日四国にある日本一の生産量を誇る石灰石鉱山を見学できるとなり、「坂の上の雲」と「坊ちゃん」を読み、四国の地理や歴史について予習をし、てっぺんに登ったらどこまで見えるのだろうか、などとわくわくしながら松山入りしたのだが、40余名余りの参加者を集めた砕石技術大会見学会は、台風18号の接近によりはかなくも取りやめとなった。昭和四十四年仁淀村史によると、「鳥形山(1459.7m)北には四国アルプスの山々が重畳として、偉容な姿で東薄青く大空に溶け込んでいた。東は高知、香長の平野が薄黄金に線を引き、はるか東方には土佐湾を囲んだ室戸岬の峰が一線、はるか太平洋に遠近指願の間にあって、山岳の一景観ともいえるべく、詩的情緒に満ちて、そとに四方(よも)の自然美に陶酔するのである。」とある。その鳥形山が現在は、日鉄鉱業鳥形山鉱業所として、頂上からスライズダウンで年間1,000万tの石灰石を採掘している。そんな鉱山に興味を持ち、一度は見たいものと焦がれていたのだが。恨めしきは台風18号。夢破れて山河有。遠い岩手の地から鳥形山を恋い慕うのである。

## A列車で行こう！

二戸駅から寝台列車が消えて久しい。駅前はやきとり屋でビール1本とお銚子2本を飲み、20時30分発の『ゆうづる』に乗り込むと、盛岡を過ぎた頃は夢の中である。翌朝6時30分、目が覚めるとそこは上野駅なのである。寝ている間に移動が完了する。この仕掛けで、松山出張の機会に東京駅前から寝台特急『サンライズ瀬戸』に乗った。ゆうづるは寝台のような『蚕棚』のイメージはなく、全くスマートな段は寝ながら星空の見えるパノラマビューである。これは愉快としばらく車窓を眺めていたが、三島辺りで記憶がなくなり気が付いたら神戸を過ぎていた。高速道路が無料になっても、運転する労力とガソリン代はなくなる。寝台列車はタイムマシンなのだ。



## 編集後記

『いわぎん・アマタケカップ』というママさんバレーの大会が毎年あります。名前の通り岩手銀行さんと食品のアマタケさんの協賛で先日大会があり、今年の激励のお話の中で『南部鳥一羽が商品化されるまでにかかるCO2』を専門の業者さんに計測してもらったそうです。従業員が出勤する所からの計測だとかで(そこから始まるのか・・・と関心)結果2.7kgだったそうです。CO2削減はコストダウンにつながる・・・我社が1m辺りの砕石を作るにはいったいどれ位のCO2が・・・と気になりました。



鳥形山鉱山遠景